

開催報告

2015年度テーマ別連続講座『身近な貧困 いま私たちに何ができるか』

第1回 「相談・支援現場からの報告…パルシステムと関係する団体より」



日時：2015年10月24日（土）14時～16時

会場：パルシステム東新宿本部7階大会議室

内容：第1部・3団体からの報告

第2部 パネルディスカッション

共催：パルシステム東京、生活サポート生協・東京

参加者：57名（20代～80代までが参加）



パルシステム組合員に「貧困問題」を現場ごと知ってもらおう企画として、第1回はパルシステムに関する団体からの報告とパネルディスカッションを行いました。

参加者はパルシステムの組合員や職員、施設利用者や社会福祉協議会の方など多方面に渡っており、会場を巻き込んだ報告は、実情を知るだけでなく笑顔も見られる学習会でした。

生活サポート生協 志波早苗

【くらしの相談の現場から】

パルシステムからの委託で「くらしの相談ダイヤル」を運営、どんな相談にも対応しています。リーマンショック後は、組合員の多重債務と外部は失業と貧困、東日本大震災後は組合員・外部を問わず、心と体に変調をきたしている人からの相談の急増を実感しています。

「社会的な孤立」が貧困に陥る最大の要素と考え、人と人、人や地域のつながりの必要性を訴え続けています。

(株)ロジカル常務取締役 久保裕介氏

【新宿ごはんプラス・支援の現場から】

「路上の視点から貧困問題を解決する」ことを目指して昨年からは月2回、新宿の路上でのごはんの提供と、暮らし・健康の相談会などを行っています。パルシステムからも食糧支援をしていて、パルシステムの配送委託会社の(株)ロジカルではこの支援物資の運搬を無償で引き受け、活動の一端も担っています。久保氏はこの活動を通じて、「貧困問題は個人の自己責任ではありません。『つながりの貧困』の解決が最も大切です。」と訴えてかけています。

NPO 法人さんきゅうハウス 吉村一正(イッセー)氏

【生活困窮者支援と地域家族】

立川で野宿者の自立支援が始まったのは15年前。イッセー氏は当時パルシステム連合会の職員でした。初めは「仕事を見つけるためには風呂に入らないと…」というところから始まり、今は利用者がカフェを開き、「学びの場」も作っています。自治会も社会福祉協議会も巻き込み、地域への波及効果大！イッセー氏は「〇年前は全く笑わなかったAさんのこの笑顔、みんな見てよ！」と利用者を紹介する場面もありました。

パネルディスカッションでは久保氏、吉村氏に加えパルシステム東京の野々山理事長もパネリストとして参加しました。パルシステムが反貧困の活動に関わり始め6年以上になります。活動はパルシステムと関わりのある団体にも影響を与えていること、生協が貧困の問題に取り組むことへの理解は組織内でもまだ十分でないこと、自分たちの活動をもっと伝えていくのも大事であることなど発言がありました。

支援をすることで実は自分のほうが元気になる。支援の場が地域の中にあることで、関わる人も少しずつ変化していき、アウトカム(波及効果)が進む。そのような活動を生協の活動の場でも広げていくことが期待されていると改めて感じられました。

学習会の最後にはさんきゅうハウス大沢理事長の「今は6人に1人の子どもが貧困。子どもの貧困はその子だけでなく日本の社会・将来に大きく影響する。日本の将来のために、この問題はみんなで支えていかないといけない。」という話に、参加者は大きくうなずいていました。

アンケート
より

- *とても実態が見える学習会でした。*報告者3名の個性と実行力に脱帽！
- *パルシステムの潜在的な資源を感じ取ることができました。
- *「絶望を希望に変える」という言葉が胸にしみました。

